

令和7年度 エンディングノートの新名称の決定および内容の改訂について

1 目的

エンディングノートは、平成27年度に初版、令和3年度に第2版を作成し、出前講座における啓発を実施することで、認知度は80%以上（令和4年度実態調査結果）であり、市民にも広く周知されている。しかし、一方で「エンディングノート」という名称に対して市民が抵抗感を持たれると、市民やサービス事業所から指摘を受けており、今後さらに活用促進を図るためには、名称の再検討が必要である。

在宅療養における本人の思いを家族や支援等と共有し、本人の望む療養や看取り支援を行うツールの1つとして、エンディングノートの活用は重要であることから、一人でも多くの市民がエンディングノートを活用できるよう内容の見直しを図る。

2 新名称について

(1) 募集について

方法：広報もりやま等で周知し、アンケートフォームを用いて募集

募集期間：令和7年5月1日から5月30日まで

(2) 募集結果

応募総数：29件（19人）

事務局での一次審査通過：4件

	名称案	名称に込めた思い
案1	みらいノート	未来に希望を込めて、ノートに書けるように表現しました。
案2	ほほえみノート	「人生の全ての思い出をほほえみに変えて」という思いを込めて。
案3	～つぐ（TSUGU）～ノート	・「つぐ」は、漢字では「継ぐ（継承していく）」「次ぐ（連続していく）」「告ぐ（告白する）」。次々と繋がっていくという意味と、自分の今まで、現在、これからことや希望を告げる（書き留めておく）という意味を込めて。 ・「つぐ」はひらがなで、前後の「～」は、過去（今まで）から～現在～未来へ（ここから）の意味として付ける。ローマ字のルビをふる。 ・「心の繋がり」として、ハートで装飾したい。
案4	つなぐノート	子供や孫など家族や大切な人に、自分の思いをつなぎ、つながるノートになるように、という思いを込めた。

3 内容の改訂について

(1) 主な変更点（資料7：黄色いマーカー部分）

- ・より手に取りやすいようインデックス加工により3部構成を維持したまま、1冊にまとめる。
- ・死後の手続きに必要な情報（本籍地や親族情報など）を追加。（第1部、第3部）
- ・かかりつけ医、かかりつけ歯科医師に加え、かかりつけ薬剤師、ケアマネジャーの記載欄を追加。（第2部）
- ・デジタル遺産に関するページを追加。（第3部）
- ・ペットのエンディングノートについての情報を追加。
- ・相談支援機関の情報一覧を追加（挟み込み）

(2) 改訂（案）について

別添資料7のとおり

4 今後のスケジュール

(1) 配布予定数

3,500部を予定。

(2) 配布時期

令和7年10月15日以降に配布

広報もりやま10月15日号にて、新たなエンディングノートについて記事を掲載予定。

(3) 配布場所

ア 市役所、すこやかセンター、圏域地域包括支援センター、滋賀県立総合病院、済生会守山市民病院、各会館、エルセンター、あまが池プラザ、図書館、駅前総合案内所の窓口にて配架、配布

イ 出前講座、講演会等にて配布

ウ 市ホームページに掲載（PDF版、Word版）